

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400609		
法人名	社会福祉法人 星隆会		
事業所名	グループホーム 暖らん		
所在地	出雲市塩冶町南町1丁目1-37		
自己評価作成日	令和4年1月8日	評価結果市町村受理日	令和4年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kiichigo-danran.jp/danran/
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	令和4年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木を多く使った建物の中で家庭的で、暖かい雰囲気を大事にしている。おやつや食事作り、クラフトなど創作活動、運動やゲーム(福祉レク用具を積極的に購入している)、脳トレ、回想法、音楽療法など多様な活動に参加する機会を設けて、認知症の非薬物療法として位置づけながら、楽しく心身の活気が保てるように努めている。諸活動を行うために用意したホールも活用している。季節の行事においてコロナ禍のもと可能な範囲で保育園児と交流している。根拠のあるケアの観点から、メソッドとして実績のある音楽療法としてミュージック・ケアを週に1回程度実施しており、認知症ケアとしてユマニチュードの研修に参加して事業所として取り入れ始めている。

平成17年に保育園の開所とともに発足した社会福祉法人星隆会は平成28年に小規模多機能型居宅介護ホームを開所し、平成31年にグループホーム暖らんを開所した。病気や障害があっても、住み慣れた自宅や地域において自分らしく生き生きと安心と笑顔のある生活と人生を送れるよう支援していくという理念は、小規模多機能ホームからグループホームまで一貫して守られている。木材がふんだんに使われている住み心地の良いホームのそこかしこで、優しい職員に見守られている利用者さん方は、リラックスして、それぞれが、体操や散歩、食事づくりに後片付け、お掃除などに励む姿が見られる。ホームは市街の中にあつて、行き交う車の喧騒が聞こえ、スーパーや衣料品店も近くにあり、毎日の食材なども買いに出ることができる。一級河川の土手に上がれば景色が開けており、神戸川の夕陽を眺めながら散歩を楽しむことができる。コロナ禍にあつて制約の多いなか、利用者さんが季節を感じて楽しく暮らせるよう様々な取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			○ 3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念等を記した職員ハンドブックを全職員に作成・配布し、採用時や事業所内研修などで説明し、共有に努めている。また、理念を所内に掲示している。	個性を生かし、尊厳を大切にするホームの理念は、職員に配布されているハンドブックの最初に記載されており、日々のケアに生かされている。入居当初の困難な事例に対しても、親身に接し続けることで、ここを居場所と次第に落ち着いていく。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍のために直接触れ合う交流はしていない。事業所周辺の道路や交差点などの草取りや清掃を不定期に行なっている。ご利用者の作った畑の作物をご近所にお配りした。	立地が市街の大きな交差点の脇にあり、一步外に出れば民家、大学、付属病院、商店や川土手など人々が行き交っており、生活もホームにこもらない開かれたものになっている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	畑の作物をご近所の方にご利用者の手からお持ちした折りに、「ご病気があっても人の役に立つことができるのかと感動した」と言葉をいただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の避難のアドバイスなどを地域の方々に相談する事ができた。日々の取り組みをお伝えして、ご意見を伺い参考にした。	市中の新型コロナ感染状況に合わせて会議は、対面やリモートなど柔軟に2か月ごとに行っている。参加者からは意見が活発に出ており、ホームの運営に生かされている。避難場所として、近隣の高校なども提案された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営や各種書類作成などで随時相談させていただいている。	開所以来市の担当者とは様々な相談助言に乗ってもらっており、顔の見える関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準にある「拘束廃止委員会」の結果を職員会で共有し、協議している。職員会議の「高齢者虐待」をテーマとした研修でも学習した。普段玄関の施錠はしていない。	ホームは開放的で利用者さんは自由に過ごしており、身体拘束はまったくない。職員の声掛けもやさしくおだやかである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和3年9月に権利擁護推進研修を受講している職員を中心に虐待防止関連法等について職員会議の研修で取り上げ、学んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの制度を実際に利用されているご利用者がおられるので、職員会議において所内の社会福祉士が制度と運用について説明した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者と計画作成担当者がわかりやすく、ていねいに説明、疑問に答えるなどして、納得していただけるよう努めている。 ※今年度は、新規利用者はいない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃ご利用者からの意見は記録してカンファレンスや職員会で取り上げる。ご家族から面会や電話、メールを通じて寄せられるご意見やご希望に都度対応する。家族会はまだできていない。	昨今の新型コロナウイルス感染防止対応により、家族との面会なども制限される中、本人の様子がわかる写真や担当による状況報告などをお手紙に添えて渡すことやリモート面会も始め、ご家族にも喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長が普段からよく現場を訪問し、ご利用者と交流している。同時に職員の声も聞くようにしている。毎月の職員研修会には理事長が必ず出席しており、職員の意見を聞いている。	職員はいつでも同僚や上司にケアの向上に向けた意見が言える。それらは、ミーティングなどに図られ、介護計画にも反映されて日々のケアに生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長自身が、時々、現場に入り利用者や職員との交流を図っている。年に1回以上職員との個人面談を行なっている。折々に個々の職員と話の場を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修で職員がテーマを決め、職員同士がスキルアップする機会としている。所外研修は音楽療法、虐待防止、ユマニチュード、ケアマネ更新研修を受講した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍もあり、他事業所との意見交換や交流の機会は持てなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	※今年度は、新規利用者はいなかった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	※今年度は、新規利用者はいなかった。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、医療関係者からの聞き取り、情報の収集によって、その人に必要な支援プランを作成するようにしている。訪問マッサージを利用されていた方がいるが、コロナのため中止している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「強さ」「役割」に注目して支援している。炊事・洗濯・掃除などの家事のほか、どなたも何か役割を発揮できる機会を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の連絡、心配事など丁寧に答えるようにしている。お便りや写真などで利用の様子を家族に知らせるとともに、面会希望にも応えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族知人との面会はタブレットやインターフォンなど機器を利用して行ってもらった。自宅と一緒に帰ることがあった。個別対応として、墓参り等の外出支援をした。	入居者は、近隣からが多く、ロケーションダメージは少ない。家や地域の商店や親せきなど出身地へのお出掛け、墓参りなど、いままでのつながりも大切にしている。部屋にはゆかりの写真も飾られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などを工夫し、馴染みとなった利用者が隣り同士で笑顔で交流し、支え合う姿が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した例はまだないが、施設や病院に移られる方には一定程度の継続的な支援も必要と認識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で見られる表情や言動を丁寧に観察し、思いを汲みとり、それをニーズの把握に生かし、ケアプラン作成に活かしている。本人の望む生活、暮らしを実現するための支援を目指す。	職員は利用者さんとともに暮らしている。日々の団欒の中から、親密になった利用者さんから心の声を聞き取りながら個性を尊重したケアにつなげている。コミュニケーションが困難な方にも傾聴・共感に心がける。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、それまでの支援者からの情報収集に努める。ご利用の中で収集できる情報も活かしてゆく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察を、職員間で共有し、定期、不定期のカンファレンスでケアに生かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期、不定期のカンファレンスや職員会議、担当制などの工夫や機会を生かして、介護計画の作成、チームケアの改善につなげるようにしている。	ご本人を中心に家族や職員が一緒に作る介護計画は個別のニーズを解決するものとなっており、状況に応じて都度変更もされている。個別プランには、ホームでの役割や運動プログラムも盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録、伝達ノート、受診記録、ヒヤリハット、事故報告などの記述を職員間で共有し、必要に応じてカンファレンスで見直しにつなげる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個人ごとのリハビリメニューを実施する、行政手続きを家族、本人の了解の元で支援する、作物を近所に配る。利用者や地域の美化活動を行う、など行なった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため外部資源の活用はできなかったが、法人内保育園、ご近所、周囲の自然などを支援に利用した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の近隣にある診療所を主なかかりつけ医として定期的な往診、夜間、休日の相談、往診ができるような体制をとっている。	ホームに常駐の看護師はいないが、協力医が定期的に往診し服薬指導も受けられる。緊急時にも24時間体制での往診可能であり、本人、家族ともに安心できる。同法人の小規模多機能ホームの看護師の協力も得られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。法人内別事業所の看護師の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退時は、密に連絡取り合っている。入院時情報提供は速やかに行なっている。退院カンファレンスを行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ACPIについて職員会で研修した。それを意識したご家族との話し合いの場を数人のご利用者について行なった。ご利用者の思いを支援経過に記すなどして職員間で共有するようにしている。	開設して4年目であり、利用者さんは、まだ重症化していないが、今後については本人、家族、医師などとも良く話し合って最良の対応ができるよう取り組んでゆく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度AEDを玄関に設置して、それを使用した救命救急の所内の講習を行った。職員会の学習会で急変の察知と対応について所内で研修した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行なった。火災時の所外への避難のためにフェンスの一部を改修した。災害時の車による避難の実地訓練を行なった。必要な備品、消耗品の備え付けにも努めている。	法人としての避難訓練は年に二回は行っている。今後、水害、地震、火災など様々な災害を想定して、また、近隣の住民や企業などとも協力体制ができるよう検討していく。備蓄に関しても、一週間程度の食料は常に確保できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴を知り、一人ひとりにあった会話や声掛けをしている。コミュニケーション技術としてユマニチュードのメソッドを取り入れることを始めた。	ホームの理念にも掲げられているように、日々のケアの中で常にその方の個性や尊厳を大切に出来ているかを、見直している。職員は丁寧で親切な態度で利用者さんに接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を日々の生活の中で汲み取り、支援経過に記録してゆくことにしている。活動や過ごし方について意向を尋ねるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パターンリズムに陥ることのないよう、毎日の活動や行事ごとのたびに、～ませんか、どうですか？と、一人ひとりの好みや意向を尋ね、尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの衣類を着ていただき、季節ごとに衣替えし、家族から新しいものを購入していただく。整容に心がけ。クリームや入浴時の洗剤、洗顔剤など継続していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に調理レクや嗜好品を提供したりしている。また日々準備や片づけと一緒にしていただいている。畑で作物と一緒に育て、収穫もしている。行事食もよく提供している。	毎日の食事は利用者さんとともに作り、季節を考慮して旬の食材での食事となっている。庭の菜園からや差し入れなどの、新鮮な野菜の酢の物やサラダに肉や魚のメインとフルーツなど彩りもよく食欲をそそる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、形態、量、好き嫌い、食器など一人ひとり工夫している。摂取量を記録して、定期的に食事内容について検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には継続していただき、必要な声かけや見守り、介助をしている。義歯の洗浄剤は、自己管理が困難な方に対しては職員が管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立できることを基本に、一人ひとりの排泄パターンや情報をもとに、トイレ案内、または排泄方法など工夫している。カンファレンスで都度見直しをしている。	排せつは、さりげない声掛けで回りにそれと悟られることなくトイレに誘導したり、利用者さんのもじもじしたサインなどを見逃さずトイレ排せつにつなげている。トイレは清潔で臭いも全くない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医師と連携しながら、排泄記録を作成し、薬だけでなく、水分摂取、運動、食物繊維摂取など取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在原則週2回のペースで入浴していただいている。一人一人に合った入浴方法で、入浴を楽しんでいただけるよう努めている。時間帯は日中としている。	入浴が利用者さんにとって楽しいものとなっており、歌ってみたり、普段にはない、親密な会話もできる機会ともなっており、落ち着かない方には、個別のコミュニケーションの機会ともしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の習慣を尊重しながら、環境の設定や声掛けなど工夫している。就寝時の居室の環境は利用者の希望を尊重している。就寝時間や就寝前の過ごし方も自由にいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の様子の観察をもとに、かかりつけ医師、家族、本人と相談し、連携して適正な服薬支援に努めている。薬剤師による居宅療養管理指導を受けている方もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみ、掃除、テーブル拭き、雑巾縫い、畑づくりなど生活の中の仕事をされている。レクリエーションについては色々な内容の楽しみを提供できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	自宅の訪問や、気分転換の散歩、ドライブへの参加の機会を提供している。近くの保育園を見学することもある。	ホームの周辺は、賑やかな街と自然豊かな土地柄なので、散歩や園芸などで、軽い運動や日光浴もでき、ホームに閉じこもらない暮らしとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談して、手元に所持するお金について決めている。不安や混乱につながることもあり、その方にあった方法を選んでいる。希望する品物は買ってくるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方がいる。暑中見舞いや年賀状など送る事ができるように日々の創作レクの活動に取り入れている。職員が介在してビデオ通話も利用される。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多用した建物で居心地のよい環境づくりに努めている。花、絵や創作した壁絵をかけたたり、保育園児の創作を置いたりして親しみのある空間作りに努めている。	玄関からホールを通して個室などすべてに木材が生地のまま生かされた建築となっており、居心地が良い。窓も広くて近隣の賑やかな喧騒や土手や山につづく自然の風景も眺められる。季節の花や手芸、利用者さん手作りの作品も好ましく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で他ご利用者と話したり、テレビや新聞をよんだり過ごす方、居室で休んだり、趣味活動をして過ごす方、和室で横になって休む方、それぞれ自由にされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら、馴染みの調度品を置いていただいている。家族の写真や誕生日色紙、創作物など重い思いに飾っておられる。	利用者さんの居室は、ベッドの他にタンス、写真や小物などが飾られたチェスト、洋服などもかけてあり、自分の部屋らしく設えられている。明るく清潔で个性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子はその人に合わせたものを選び、必要に応じてクッションや足台、背サポートを使用している。何箇所か手すりを増やした。トイレや居室前のサインもわかりやすいよう工夫している。		